

ここがポイント .....

積極的な  
コミュニケーションを  
大切に

## 8 外国語（英語）

### ☆4技能の「総合的」な指導 と「統合的」な活用

特定の技能に偏った指導にならないよう、4技能を「総合的」つまり「バランスよく」育成することが大切です。また、2つ以上の技能を結び付けて扱う「統合的」な活動も効果的に行いましょう。また、「話すこと」には、「発表」と「やり取り」の2つの領域があることにも留意しましょう。

### ☆文法はコミュニケーション を支えるもの

文法はコミュニケーションを支えるものです。用語や用法の区別などの指導が中心とならないように気を付けましょう。使用する場面と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように指導することが重要です。

### ☆中学校との接続を

中学校の学習指導要領を踏まえ、言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を必要に応じて振り返り、定着を図ることが必要です。

### 英語を使って何ができるようになるか

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から学習到達目標を設定し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能をバランスよく組み合わせた学習活動を通じて、英語によるコミュニケーション能力を育成することが求められています。

目標の実現のためには、身に付けている語彙や文法などの知識を取捨選択しながら活用させる学習過程を通じて、実践的なコミュニケーション能力の定着を目指すことが大切です。

### 授業は英語で行うことを基本とする

生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことが基本です。その際、教師が生徒の理解に応じた英語を用いるようにすることと、生徒が英語を使用する場面をできるだけ多く設定することが大切です。相手に配慮しながら、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うため、クラス全体の望ましい雰囲気をつくり上げていきましょう。

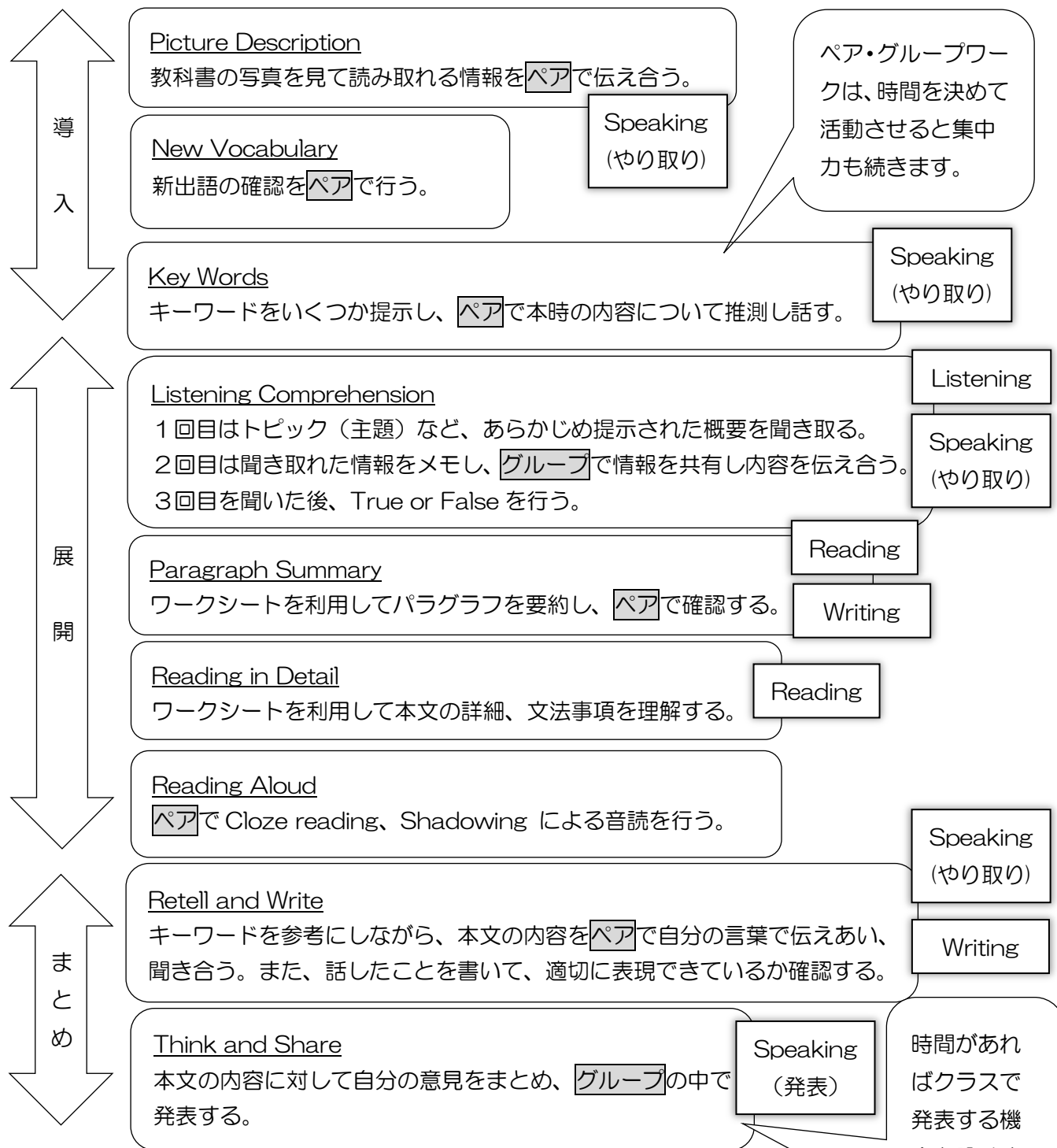
### 発信力の強化のために

適切なコミュニケーションのためには、「聞いたことや読んだことを理解する力」と、「考えや気持ちを適切に話したり書いたりする力」の両方が必要です。その育成のためには、それぞれに指導すべき事項があることに留意しましょう。特に「話すこと」、「書くこと」の指導に当たっては、使用する語句や文、具体例を十分に示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう、言語活動を工夫しましょう。

# 生徒主体の英語の授業を目指して

- 教師がいるからできること、友だちがいるからできることを考える。
- 生徒が英語を使用している時間がどれだけあるか考える。
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする雰囲気づくりを心掛ける。

友だちがいるからできる授業（ペア・グループワーク）例（コミュニケーション英語）



**活動例について調べよう**

- ・「英語教育ポータルサイト『えいごネット』」一般財団法人英語教育協議会（ELEC）  
<http://www.eigo-net.jp/>
- ・「英語のページ ALT が作成した教材」総合教育センター  
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kyouka/eigo/eigo00.html>